

- ◆教師と児童、児童相互が受容的・支援的につながり、建設的な雰囲気を持つこと。
- ◆適度な緊張感を伴いながら、相互に注目し合えること。
- ◆相手の立場や心を考え、互いに尊重できること。
- ◆相手を意識して話し、行動できること。

### 3 やりがいづくり

通うことに価値と意義を感じることでできる学校にするため、次のことを重視する。

- ◆自分が確かに伸びていると感じることのできる学び<sup>※1</sup>をつくり出すこと。
- ◆「努力することの価値」を実感できる学習などの活動<sup>※2</sup>があること。
- ◆人と人とのつながりの中で、自分が役割を果たしていると確かに感じられる<sup>※3</sup>こと。

このような学校・学級をつくり出すことこそ、学校に課せられた使命であり、このことがいじめの防止の最も大切な基盤である。すなわち、学校が学校としての機能を十全に果たすことが何より重要である。

## 第2 学校経営計画等への位置づけ

### 1 方向性

基本方針を学校経営計画に位置づけると共に、学校評価、教職員評価制度の機能を活かし、いじめの防止等にかかる考え方や方策等を徹底させる。さらに、これらを不断に改善できるように、年間3回の研修をもってPDCAサイクルを確かなものとする。

### 2 学校経営計画

- (1) 学校経営計画の中に、いじめの防止等にかかる重点を具体的に明記の上、教職員に周知する。
- (2) 教職員は、教職員評価制度に基づく自己申告書に、児童の実態等を十分に踏まえた上で、努力すべき点を明記する。
- (3) 教職員評価制度に基づく個別面談を実施する際には、各教職員の取組状況について取り扱い、改善が行われるようにする。
- (4) 学期ごとに行う学校評価に、いじめの防止等についての項目を設け、組織的に点検し、改善を行うようにする。
- (5) 教職員評価制度と学校評価を一体のものとして運用し、これによって基本方針を徹底し、教育活動全般が不断に改善されるようにする。

支持的風土と、豊かなコミュニケーションの育成

- ※1 自信を育む学びづくり
- ※2 効力感、充実感を育てる活動
- ※3 自己有用感の育成

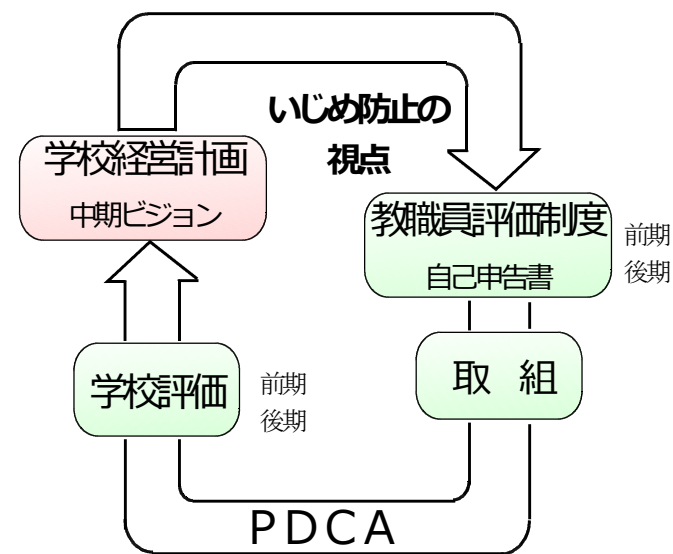


図2 学校経営計画等への位置づけ